

令和6年度 学校評価書

学校名: 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関わること

1	学校教育目標: 「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。	自己評価	学校関係者評価委員会から	
2	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	①部長会や掲示物等を利用し、一人ひとりが活躍する部活動になるよう指導する。年度末アンケートで、満足度80%を超える。【生徒課】 【学校説明】 各部活動の活躍が、学校の活性化につながり、多くの生徒が成果を出してくれている。全国でも活躍する生徒がいることは学校全体に大きな影響を与えてくれている。	A	A 部活動等が活発に活動されており、市高の目指している文武両道が図られている。一人ひとりに達成感や成就感を持たせ、人との関わり方、自己理解を深めさせた。
		②適切な帰宅時間を順守できるよう、学年部・部活動と連携し、家庭学習時間を確保していく。「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時半までに学校敷地外に出る生徒の割合が前年度並みとなることを目指す。【教務課】 【学校説明】 7月と11月に帰宅時間調査を実施した。午後7時半までに学校敷地外に出た生徒の割合は、7月が90.5%、11月で91.8%で概ね例年並みの水準であった。引き続き部活動等と連携し、学習時間の確保を図っていきたい。	A	
		③教科を超えた授業研究会を年間2回開催し、学校全体で共有する。また、授業評価アンケートを通して生徒に「主体性・視野の広さ・自己有用感」の総合的な自己評価を促す。授業評価アンケートにおいて「主体性・視野の広さ・自己有用感」が身についたと感じる生徒が、全体の80%を超えることを目指す。【研修課】 【学校説明】 主体性が身についた生徒が85%、視野の広さが79%、自己有用感が67%であった。例年に比べて授業に対する自己評価が低いため、管理職による授業指導や教員一人一人の授業改善意識・授業技術の向上を図る必要がある。	C	
(2)地域や保護者に関わった学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進	①PTA会員や役員と連携してPTA活動がより活発になるようにして、生徒が生きて学校生活を送ることができるようにする。情報課と連携して、ホームページでPTA活動の情報を積極的に配信する。PTA地区会を通して、学校と保護者の連携を深める。PTA研修会の参加率5%程度増加させる。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載を5回以上行う。PTA総会等の保護者が参加する行事を再開する。【総務課】 【学校説明】 PTA校内研修会の参加者は35名、校外研修(大学訪問)は28名で、昨年度より増加した。ホームページへの掲載は予定通り行われた。また、PTA総会・文化祭バザー・地区会など様々な事業方法を検証しながら実施することができた。	A	A 生徒の頑張りを広く広報し、中学生やその保護者の理解を深めるとともに、学校・家庭・地域との連携・協働により充実した教育環境を維持していきたい。	
	②学校公開ポスターを一新して効果的な広報物に変える。学校案内の内容を精選して、次年度のデザインの変更の準備をする。Webページに関しては、タイムリーな情報発信を実施する。学校公開ポスターは5月からの中学校訪問に間に合うよう作成する。学校案内は8月完成を目指す。Webページは年間平均閲覧数で1,000件/日を目指す。【情報課】 【学校説明】 学校公開ポスターの作製をデザイナーに依頼し、新しいものに変更した。B2版の大きなものを作成し、中学生に対して魅力的な広報物を作ることができた。学校案内も予定通り完成した。Webページの平均閲覧数は12月時点で610件/日であった。第3回edmap学校ウェブサイト大賞の候補校になるまで注目度は高いので、引き続きタイムリーな情報発信を実施する。	A		
	③勤務時間が適正であるとする教員が50%以上。【管理職】 【学校説明】 今年度は朝の課外授業の開講日数や土曜授業の見直しを行い、各教員の時間外勤務の削減を促した。加えて、時間外勤務に対し振替等で過当たりの勤務時間の適性を図った。出退勤タイムカードで客観的に各教員の勤務時間を把握し、若干の改善はみられたが目標値に達することができなかった。	B		
(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	①勤務時間が適正であるとする教員が50%以上。【管理職】 【学校説明】 今年度は朝の課外授業の開講日数や土曜授業の見直しを行い、各教員の時間外勤務の削減を促した。加えて、時間外勤務に対し振替等で過当たりの勤務時間の適性を図った。出退勤タイムカードで客観的に各教員の勤務時間を把握し、若干の改善はみられたが目標値に達することができなかった。	B	B 部活動指導については外部人材の活用等を検討する必要がある。人権・コンプライアンスの面、率先垂範としても、ワークライフバランスを充実させたい。	

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から				
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①朝課外、3年生の各種課外、2年生勉強会、1年生夏季通学学習会等を企画運営し、生徒の学力伸長を図る。また模試を最大限活用するための指導方法を模索する。普通科一般クラス、特進クラス、科学探究科に対して、朝の課外授業を適切に実施する。模試の事前準備として、過去問題冊子とClassiを活用する。【進路課】 【学校説明】 1、2年生は週3回、特進クラスは必修で、普通科クラスと科学探究科は希望制で朝の課外授業を実施した。特進クラスは11月の模試において、普通科一般クラスに比べ平均偏差値で1年生は3ポイント、2年生は4ポイント上回る結果となった。3年生に対して例年通り、朝課外・放課後課外授業を行うことができた。この後2月からも特別補講を実施する予定。	B	A 実績も上がっており、例年通りの計画実施で良いと思われる。生徒の能力、興味・関心に対応した個に応じた指導とともに、機会あるごとに「なぜ学ぶのか」学習への動機づけと高い志を持たせる指導に期待する。前年度の進学実績が評価できる。				
		②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取組 学習実態の把握、生徒面談、部活動ガイドラインの遵守。家庭学習時間の確保のための学年・担任及び部活動顧問の連携による支援。部活動を通じた人間性・自主性・社会性及び個性・能力の伸長。部活動+学習時間=5時間を目指す。【1年部】 学習実態の把握、生徒面談、部活動ガイドラインの遵守等、家庭学習時間の確保のための学年・担任および副担任と部活動顧問の連携による指導を行う。課外授業、勉強会、模擬試験等の円滑な運営と指導体制の確立。家庭学習は平日2時間、休日5時間以上を目標とする。【2年部】 部活動と学習の充実(学習+部活=5時間)を引退前より促し、部活動引退後の気持ちの切り替えを早く行う。授業に意欲的に取り組み、課外への積極的参加、放課後の自学自習を促す。また、LHR等の時間を有効活用するとともに、HR副担任による継続的な面談を実施する。生徒の目標設定の支援を行い、受験情報を提供することで視野を広げ、最後まで粘り強く受験に挑ませる。課外への生徒の参加人数の増加、国公立大学合格者数180名以上を目指す。【3年部】 【学校説明】 (1年部) 時間を持て余している生徒ほど、達成することができていない。家庭学習は、課題のみに終わりプラスαの勉強ができていないことが理由の一つである。ただ、部活動と勉強を両立させ、頑張っている生徒も多数いる。成績優秀者の70%はほぼ毎日部活動を行っている生徒である。 【学校説明】 (2年部) 家庭学習時間は平日2時間、休日3時間程度を推移した。目標値には達していないものの、校内定点調査では、家庭学習が1時間未満の生徒の割合が例年より少なく良好な結果と言える。学習時間調査や模試直しノートの一貫した指導を、学年で継続することができた。 【学校説明】 (3年部) 1、2年次の継続的な指導に加え、部活動引退後のスムーズな進路学習への移行を進めることができた。また、自習室の利用や放課後、夏季、冬季課外への参加など学年での進路実現に向けた良い雰囲気を作ることができた。学年集会やLHRの時間では、進路課からの指導講話や、旧3年部の担任職員からの講演会を定期的に行うことで、進路意識の高揚を図る行事を随所に入れてきた。一方で、正副担任による面談を継続的にを行い、最後まで粘り強く進路実現を目指す気持ちを育てることができた。						
		③学習履歴を蓄積し、情報を適切に共有する体制を整備する。共通テストの新科目に対応できる体制を校内で構築する。【教務課】 【学校説明】 Classi等を利用して、学習履歴を適切に共有する。新科目に対する指導体制を確立する。			A			
		④指導に必要な書籍の選書、購入を行う。教員、図書委員によって図書室の利用を促す。新着情報や生徒による図書委員会の活動を通じて図書室利用を呼びかけ、利用者を増やす。【図書課】 【学校説明】 新着図書は教室掲示、図書委員による教室での図書室の利用の呼びかけを随時行った。また、図書委員によるビブリオバトルで紹介した本は、展示企画を行った。1年生の課題であったPOPは、静岡市立図書館と連携し、一角に専用コーナーを設置していただいた。			A			
		⑤海外語学研修や海外から訪れる高校生との交流会を企画・運営する。また、本校生徒が海外へ交流事業に参加する際には事前・事後指導を行う。事後アンケートを行い、それぞれのプログラムについて、参加者の80%が満足する。【研修課】 海外研修プログラム(アメリカ・韓国)に参加した生徒の100%が満足であると回答した。久々の開催となったが、無事にプログラムを遂行することができた。			A			
		①日常から、全職員でこまめな道徳教育、人権意識指導を行う。生徒課指導件数を5件未満にする。【生徒課】 【学校説明】 指導件数2件。1件は未然に防ぐことができた案件であったと思う。しかし、1件は警察に委ね、学校での指導の範疇を超えていた。日常の指導の見直しや改善を進めたい。			B			
		②校則の見直しを生徒会主導で行う。2学期生徒大会で承認された後、全生徒が内容を理解する。また順守率80%を超える。【生徒課】 【学校説明】 昨年度は靴下のワンポイント化や、登下校時の上着の着用について変更した。本年度は特に見直しをしていないが、来年度に向けて生徒会で検討中である。			A			
		2 生徒指導			(1)一人一人を大切に指導 【市共通項目4】	①日常から、全職員でいじめが絶対にいけないことであるという指導を行うとともに、何がいじめに該当するか、随時確認する。いじめ件数0件。【生徒課】 【学校説明】 いじめ件数は0件。しかし、言葉使いや、声掛けにより、いじめととらえられることもあるので、日常の指導を徹底したい。	A	A 人権尊重の精神は、平和やより良い社会への礎である。今後も教職員・保護者・関係機関等が連携した、きめ細かな対応に期待する。
						②相談室だより、学年集会、保健講座、人権教育において人権尊重の立場を生徒へ明確に伝える。生徒の校内の人間関係における相談が校内の職員になされる。【教育相談室】 【学校説明】 こころのアンケートで生徒から回答があったものや、教育相談室に持ち込まれた生徒の相談内容については、関係職員と共有し、丁寧に対応することができた。	A	
		3 進路指導			(1)進路指導の充実	①学習習慣の確立・定着を支援する。また大学による出張講義や職場体験、キャリア講演会等により、自らの進むべき分野について考える機会を提供する。年度当初に5教科で初期指導を行うとともに、全学年で学習時間調査を毎日実施し、習慣の定着を図る。15以上の大学による講義・説明会を実施する。【進路課】 【学校説明】 新入生に対し教科初期指導を行うとともに、学習時間調査を行った。6月のアンケートでは5割以上の生徒が平日に1.5時間以上、休日に3時間以上の学習時間を確保することができた。1年間に述べ28名の大学の講師による講義を行い、1、2年生は最低2つの講義を受講することができた。	B	A 生徒の学習時間について、計画を達成することのできていない生徒への指導方法を検討していただきたい。社会の第一線で活躍している人との出会いは、自己を見つめ、将来を考える良い機会である。高い志を持たせるためにも適時に実施していただきたい。
②進路だよりの発行、Classi配信等による進路情報の提供を充実させる。また各種研究会へ多くの教員に参加してもらい、最新の入試情報を生徒へ還元できるようにする。各学年、年間5回以上進路だよりを発行する。3年部職員は年間2回以上、進路研究会に参加し、内容を全体に報告する。【進路課】 【学校説明】 各学年進路だよりやClassiの配信により進路情報の提供を行うことができた。各業者が行う春、秋の入試分析会に3年担任が参加し、進路検討会において情報共有を行った。この後、冬の入試分析会が予定されている。	B							
③進路だよりの発行、Classi配信等による進路情報の提供を充実させる。また各種研究会へ多くの教員に参加してもらい、最新の入試情報を生徒へ還元できるようにする。各学年、年間5回以上進路だよりを発行する。3年部職員は年間2回以上、進路研究会に参加し、内容を全体に報告する。【進路課】 【学校説明】 各学年進路だよりやClassiの配信により進路情報の提供を行うことができた。各業者が行う春、秋の入試分析会に3年担任が参加し、進路検討会において情報共有を行った。この後、冬の入試分析会が予定されている。	A							

4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①無事故・無違反を達成する。【生徒課】	B	B	事故件数が多いことが気になる。外部講師による「交通安全教室」等を計画してはどうかと考える。社会の一員として、自他の安全や命を守ろうとする意識を育てたい。	
		【学校説明】 日頃から重点的に交通ルールの指導を行っているが、無事故・無違反は達成できていない。継続的に指導を行っていききたい。	A		A	学校は社会の中で最も安心・安全な場であるべきであり、地域にとっても魅力ある施設でありたい。
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	①生活習慣の確立に関する各学年部の取り組み 欠席・遅刻・早退の数を前年度の90%以下にする。いじめ0件にする。【1年部】 遅刻・欠席の少ない学年を目指し、学年末の皆勤者100名を目標とする。【2年部】 毎日の学校生活（授業、廊下、各室への入退室等）での状況確認。いじめ案件ゼロ。【3年部】	A	A	A	生活習慣の確立は、大きな展望をもって活動したり、夢の実現に向けて計画し、実行したりする力の基盤である。自律性の育成のためにも、様々な機会を捉えて、意識を高めたい。
		【学校説明】 (1年部) 本年度は欠席668、遅刻198、早退114であった。(2学期まで) 昨年度比は欠席58%、遅刻33%、早退61%であった。全体的に元よく学校生活を送ることができた。いじめ件数は0件であったが、SNSや情報機器の扱いに心配があるため引き続き指導していききたい。 (2年部) 1学期皆勤者143人、2学期皆勤者97人であり、1年時より皆勤者は減少した。遅刻については、朝の5分前着席が定着しており、落ち着いて学校生活を始めている。 (3年部) 1年次にいじめ案件が出てしまったことは残念であるが、その後は落ち着いて生活を送ることができた。生徒・職員間の信頼関係や他者を尊重する態度などを育てることができたことは良かったと思う。競争意識が乏しい感はあるが、一方では穏やかな雰囲気、切磋琢磨しながら進路実現に向けての生活を送ることができた。	A			
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①相談室だより、保健だより、学年集会、保健講座、人権教育において人権尊重の立場を生徒へ明確に伝える。生徒の困りごとが、早い段階で相談されることが増える。【教育相談室】	A	A	A	相談室、保健室は安心・安全にとって最後の砦である。全教職員が連携して生徒・保護者の安心を支えていきたい。大切なことであるため、引き続き早期対応に努めていただきたい。
		【学校説明】 保健講座では、講演の中で自身を尊重することの大切さを伝えることができた。また、相談室だよりや保健だよりを月1回発行し、相談室の利用を呼び掛け、生徒の困りごとや、保護者の子供に関する悩みなどに対応することができた。	A			
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	①組織的・協働的な教育活動に取り組む教員が全体の80%以上。【管理職】	A	A	A	生徒の状況を共有し、指導方針を揃えた対応に期待する。
		【学校説明】 全教職員が、SSH事業をはじめとする各教育活動に組織的・協働的に取り組むことができた。加えて、研修課が中心となり様々な研修を全教職員が参加することで各教育活動に対する知見等を深めることができた。	A			
8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	①現行の教育課程が適切であるか検証し、生徒の成長に寄与する教育課程の編成を目指す。適切な学習評価の運用を目指す。【教務課】	A	A	A	評価結果を指導の改善に生かし、生徒の学習意欲の向上に繋げたい。
		【学校説明】 教育課程検討委員会を4回開催し、現行の教育課程の見直しを行った。検討の結果、生徒の進路実現に寄り添う教育課程の変更を行うことができた。また、年間を通じて適切な学習評価を行うことができた。	A			
		②年間9回の職員研修を実施し、主体性・視野の広さ・自己有用感の育成を実現していくための指導体制を確立する。また、授業改善のテーマを定め、一貫した授業改善を行い、教員の資質向上を図る。年度末に重点目標に対する自己評価を行った際に、評価「A」が全体の70%以上になるようにする。【研修課】	B			
		【学校説明】 授業力向上研修を3回、小論文研修・教育相談に関わる研修・AED研修を1回ずつ、SSH関連の研修を2回行った。加えて今年度はグランドデザインの研修を年度当初に取り入れることにより、教育活動の方向性を職員全体で共有した。	A			
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①PTAが発行する『鴻志』『ふれあい』等の情報発信業務を、PTA役員と協力して適切に行う。広報関連の発行物を適切なタイミングで作成するとともに、内容の精選を進める。【総務課】	A	A	A	学校からの広報は、学校・家庭・地域との連携・協働の礎である。
		【学校説明】 鴻志、ふれあい等の定期刊行物を予定通りに発刊するとともに、誌面のスリム化を図った。	A			
		②地区別集会や防災訓練等を通して、生徒・教職員の防災意識の向上や地域防災への関心を高める。また、地域防災訓練への参加者数を増やす。/防火管理者（教頭）と協議のうえ、消火訓練など本校の防災管理計画を見直し、職員の役割分担を確認する。地域防災訓練への参加者数を5%程度増加させる。校内防災訓練を3回以上実施する。【総務課】	A			
【学校説明】 今年度は昨年度よりも地域防災訓練を実施する地域が増え、生徒参加者は122人で昨年の98名よりも増加した。校内防災訓練は、9月を7月に変更し、学期に1回ずつ開催できた。	A					
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	安全点検を計画的に実施し、改善・修繕の担当箇所を明確にして連絡調整をする。教室のカーテンの修繕・新規購入や、机と椅子の安全点検と新規購入を計画的に行う。毎日の清掃活動を分担の担当が指導する。安全点検が行われ、修繕等の対策がなされ改善される。ゴミの分別を呼びかけ、分別が適切に行われる。【保健環境課】	A	A	A	学びの心を育成するためにも、整理整頓された環境、安心・安全な環境を生徒が主体的につくる心を育てたい。 汚れた暗い場所で犯罪が発生するため、明るく清潔な環境整備に努めていただきたい。
		②古紙リサイクルの推進及び可燃・不燃ごみの分別の周知、徹底を図る。また、省エネについては、教室等のLED化を計画的に進めていく。【事務室】	A			
		【学校説明】 「ごみの分別」については、徹底されるよう周知を行い意識啓発に努めるとともに、学校用務員による廃棄物の確認を行った。また、「省エネ」については、中央館東系統のトイレ洋式化に伴い天井電灯のLED化を実施するとともに、東館1階及び本館1階の空調設備の更新により省エネ化が図られた。さらに、エアコンや電灯等の消し忘れがないよう周知を行い、省エネに努めた。	A			
(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①探究活動の成果を地域に還元する。静岡市内教員を対象とする研修（ISEP教員研修）の実現に向け、管理機関との打合せの機会を創出する。独自アセスメントを軸とするカリキュラム開発を行う。6.2月に生徒発表会を実施し公開する。管理機関との打合せを2回実施する。独自アセスメントの結果を校内教員研修の機会に共有する。国内外の高校との交流を2回以上実施する。【理科科】	A	A	A	科学探究科の成果を普通科、地域へと還元することで、探究を軸として個人が深く考え、行動する力の育成に繋がる。交流の継続は大切であることから、今後も目標設定とその達成に努めていただきたい。	
		【学校説明】 6月と2月に生徒発表会を公開した。海外科学研修先の台湾の高校に加えて県内外の複数の高校と生徒間交流を行った。市教委や市教育センターと連携し、8月に市内中学校教員対象のISEP教員研修を実施した。11月には中学校授業指導力向上研修に参加し、情報交換や意見交換を行った。				A
		②教材の公開、アーカイブの活用について研究する。教員との議論を通して生徒の主体的な取組を支援し、各種コンクールへの応募等を積極的に促す。振り返りシートを年間を通して実施する。研究内容に関する評価平均値3.0以上、科学系コンクールでの受賞2点以上を目指す。【科学探究科】				A
		【学校説明】 クラウド上に科探科1～11期生の研究レポートを保存したデータベースを作成し、14期生（1年）が、次年度に行う課題研究の課題設定に活用している。科探科2年生は課題研究の振り返りを毎回行うことで、自己調整力や主体性の育成につなげることができた（生徒アンケートは2月中旬に実施する）。科学系コンクールでは、1/15時点で4件が受賞した。				A
		③ISEP企画委員はSSH運営指導委員会に参加し、指摘された事柄を教員間で共有しISEPの改善に活かす。探究活動が充実していたと回答する生徒の割合が80%以上になるようにする。【科学探究科】				A
【学校説明】 SSH第3期1年目として研究開発に取り組んだ。計3回のSSH運営指導委員会で指摘された事項を教員間で共有し、ISEPの実践・省察・改善につなげた。生徒アンケートは2月中旬に実施する。	A					
④大学等との連携も活用して教員の指導力を向上させる。少人数を活かした授業を展開する。「プログラムを通して気づきが得られた」と回答する教員70%の割合が70%以上、少人数授業に対する生徒満足度85%以上になるようにする。【科学探究科】	A	A	A	十分な達成の状況である。		
【学校説明】 科探科、普通科での探究活動を通して「生徒の変容を感じた」教員は78%に上り、その指導経験が授業改善につながった教員も73%に上った。科探科では探究活動に加えて英・数・理の授業で少人数指導を行い、生徒と教員との意見交換を多く行った。	A					

学校から 経営のまとめ(成果と課題)
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染が減少し、コロナ禍前に実施していた学校行事などの教育活動について見直しも含め再開することができ、本校の掲げる教育目標を概ね達成することができた。 ・文部科学省指定のSSH事業では、科学探究科・普通科ともに、フィールドワークや校外の方々との関わり合いを持ちながら探究的な活動を進めることができた。 ・授業をはじめとした学習活動や探究活動、部活動などのあらゆる場面で、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進した。 ・観測別評価の導入に伴い、全職員で授業改善やテストや成績評価を適正に行うことができた。 ・加速度的に情報化社会が進む中で、生徒一人一台端末を活用した授業実践を教員研修を通して更に充実させる。 ・学校ホームページの更新、中学校訪問等による学校説明会、土曜公開授業日に実施した中学生や保護者を対象とした学校説明会とおして、充実した広報活動を行うことができた。加えて、本校生徒達が作成した学校紹介動画も活用して広報活動を行うことで中学生や保護者から好評を得ることができた。 ・今後の生徒数は減少傾向であるため、継続的に教育活動を整理・分析し、時代に合った教育活動の実践を行い、生徒達に魅力ある市高を構築するため全職員で取り組む。

学校関係者評価委員会まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・多項目にわたり、計画から実施までよくできている。更に、自己評価を参考にしてステップアップしていただきたい。 ・目的意識をもち、時代に合わせた変化対応を目指した取り組みに期待する。 ・「16～18歳の生徒達に人間形成過程でどこを伸ばすのか」教員間で共有を図っていることに評価できる。